

Q13 音楽における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

音楽の時間が大好きなA君です。リコーダーは苦手ですが歌は大好きです。でも、みんなと一緒に歌うことより、自分の大好きな「クレヨンしんちゃん」や「サザンオールスターズ」の歌を歌いたいのです。かなり長い曲でも数回歌うと暗記してしまいます。時々、嫌いな音やそのボリュームによっては、耳をふさいだりすることがあります。

自閉症の子どもは、ある特定の音や音量に対して過敏な傾向を示します。例えば、大太鼓やシンバル等の大きな音、キーンとしたリコーダーの音、全員で合唱する時などは、耳をふさいだり教室の隅にうずくまったりすることがあります。でも、お気に入りの曲を聴くと、口ずさんだり、足でリズムをとるなど、楽しそうな様子もみられます。

〈このような場合の支援 1〉

小学校5年生の知的障害を伴う自閉症の男児。歌うことは大好きですが、リコーダーもピアノも吹けません。音楽室への移動は一人でできます。自分の思った通りに授業が進まなかったり、初めて歌う曲だったりすると、パニックを起こして奇声を発したり、座り込んで動かなくなったりします。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① いつも大きな声で、元気よく歌っていることをほめる。
- ② 朝の会や帰りの会等で、音楽で学習する新曲を事前に聞かせておく。
- ③ いつも歌を歌ったらリコーダーをやるというパターン化した授業でなく、組み合わせを変えるように工夫する。たとえば、楽しいリズム遊び等との組み合わせも考える。
- ④ 全員で歌う声のボリュームに耳ふさぎをするような場合は、無理に歌わせる必要はない。
- ⑤ 音楽の流れを紙に書いて、参加できる部分を本人にも明確にする。

〈このような場合の支援 2〉

小学校4年生の高機能自閉症の男児。リコーダーの練習の時に、友だちから「音が変だ」と言われてけんかになってしまいました。本人は楽譜を覚えることが得意で、リコーダーにも強い執着心があります。それを注意されたと勘違いしてカッとしたようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑥ リコーダーの練習に一生懸命に取り組んでいることを、教師が称賛する。
- ⑦ 友達が指摘した内容と、本人が受け取った内容にズレがありケンカになっている場合は、教師の方で本人にその内容を確認しながら指導する。
- ⑧ 日頃から、友だちとの会話の仕方を具体的に教えていく（例：強い口調で話さない）。
- ⑨ 音楽で合唱や合奏を行う時のグループ編成は、その子どもの友だち関係にも配慮する。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子